事例番号 003　カラーから「から」のまちづくりへ（北海道函館市）

1. 背景

函館山の麓の西部地区には、明治から昭和初期にかけて建てられた洋風、和洋折衷様式の木造の建物が数多く残っている。それらの建物の下見板(注)や窓枠等には長年にわたって様々な色で幾重にも塗り重ねられたカラフルなペンキの層がある。その層を「発掘」した集団が「元町倶楽部・函館の色彩文化を考える会」である。同会は西部地区の住民、行政職員、建築家、大学研究者から成る市民グループであるが、1988 年以降、「こすり出し」という方法でこの「発掘」を行った（トヨタ財団の研究助成による）。「こすり出し」とは、サンドペーパーでペンキの塗膜を木地が出るまでこすり、ペンキの層を樹木の年輪のように楕円形に浮かび上がらせる方法である（こすった後は補修用のペンキで元に戻す）。

（注）家の外壁に用いる板。長方形の板を横向きに複数枚張るが、その際板の下方をやや外向きにして上の板の下端が下の板の上端に重なるようにする。

なぜこのような「こすり出し」を始めたのか。そのきっかけとなったのは、1983 年に行われた「旧函館区公会堂」（重要文化財）の修復であった。修復によりそれまで見ていた色とは全く異なる創建当時の鮮やかな色が復元されたのである。その後、下見板建築の外壁を観察していたメンバーのひとりが何層にも塗られたペンキの層を発見し、その層は色を証言する歴史の生き証人ではないかと発想した。その仮説を実証すべく「こすり出し」が始まった。その方法で 85 棟の建物を調査して明治から現在までの街並み色彩の変遷を明らかにした。

「こすり出し」で浮かび上がった色鮮やかな年輪は「時層色環」と命名された。そして、建物所有者へのヒアリングを行った結果、それらの色彩は個人の思いで選択されたことが判明した（港をイメージして、娘がいるためかわいい色で、有名建築にあこがれて、等々）。外から規制されて消極的に選んだ色ではなく、自らが積極的に自由に選択した色であることがわかった。ペンキが人々の思いを表現する道具であることがわかり、また、ペンキを通して人々がまちに働きかけていたことがわかったのである。

会はこの活動（「函館・街並み色彩研究」）を 1991 年のトヨタ財団主催「身近な環境を見つめよう研究コンクール」に応募してグランプリを受賞し、2,000 万円の研究奨励金を獲得した。そしてこの 2,000 万円を活用して 1993 年、「公益信託函館色彩まちづくり基金」（以下、基金）を設立した。この基金は、市民団体が委託者となって設定される「まちづくりファンド」としては全国ではじめてのものであった。そのねらいは、研究を通じて認識された人々の自己表現、まちへの働きかけの大切さをまちづくりに発展させていこうというものであった。

2. 目標

函館ならではの色彩を機軸としたまちづくりをすることが大きな目的になっている。

3. 取り組みの体制

基金を運用するためには、委託者の「元町倶楽部・函館の色彩文化を考える会」以外の事務局

を新たに設置することが必要になり、「公益信託函館色彩まちづくり基金函館からトラスト事務局」が設立された（任意法人）。この「函館からトラスト事務局」は、基金の運営に関し、信託銀行を補佐し、実際の活動支援を行うことを目的としている。

会員の種別・資格は特に設けていないが、住友信託銀行との契約において委託元である函館元町倶楽部からの参加は 2 名に限定されている。会員数は 19 名であるが、実働会員数は 9 名程度である。

元町地区の地図　（資料：函館市役所）

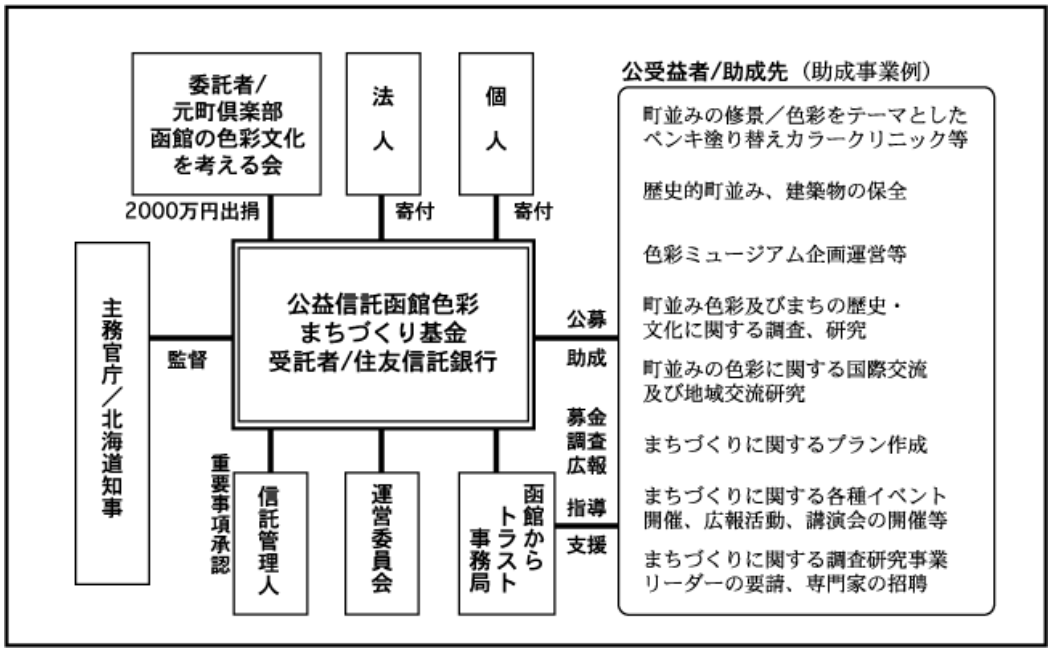
4. 具体策

（1）基金の運営体制

基金の具体的な運営体制は次図のようになっている。運営のために下記メンバーによる基金運営委員会が設けられている。

〔公益信託函館色彩まちづくり基金運営委員会委員（2002 年 12 月 1 日就任）〕

韮沢　憲吉（函館工業高等専門学校教授）
加納　淳治（編集室 Kanoh）
角　幸博（北海道大学大学院工学研究科教授）
野々宮　勇（函館市都市建設部部長）
小澤　武（建築家・小澤建築研究室）
二本柳　慶一（㈱二本柳慶一建築研究所）
腰山みゆき（オフィス NORD）
佐々木貴子（北海道教育大学函館校助教授）



基金の運営体制（資料:公益信託　函館色彩まちづくり基金ホームページ）

(2) 基金の助成対象事業

基金はこれまで、独特の色彩文化を背景にした歴史的町並みの保全・整備、市民参加・提案型のまちづくり活動、函館にふさわしい国際交流等、さまざまなまちづくり活動に対して助成を行ってきている。助成は、函館市内において自主的に行われるまちづくり活動を対象としている。函館のまちづくりに関するものであれば函館市民以外による活動も助成対象である。基金運営委員会の審査を経て毎年助成先を決定している。

公益信託函館色彩まちづくり基金の 2004 年度助成団体

	基金助成団体　代表者	助成希望テーマ	希望金額	助成金額
1	はこだてフォトアーカイブス はこだて写真図書館 代表者　津田　基	大正・昭和初期函館市の町並み風俗をとらえた熊谷幸太郎の写真資料作製	５０万円	２５万円
2	函館デザイン協議会 代表者　渡辺　譲治	「西部地区の建築絵本」の原画作成	６０万円	２５万円
3	じろじろ大学出版局 代表者　田村　昌弘	じろじろ大学出版事業のための準備経費	６０万円	２５万円
4	函館こども劇場 代表者　和泉　佳代子	子供の情操や感性を養うために欠かせないとされる生の舞台を届けるため、児童劇団による舞台公演を実現したい。	３０万円	
5	ペンキ塗りボランティア隊 代表者　花本　達郎	町家ペンキ塗りワークショップ・XⅡ	４０万円	４０万円
6	函館町子 代表者　野口　志乃	住みたい！働きたい！みんなに見せたい！ 「函館町家」づくり	48.75万円	３５万円
7	函館道化師塾 代表者　高橋　順一	市民サーカス創る会の一環として函館道化師塾でのボランティア活動	１０万円	
計			7件 約298万円	5件 150万円

（資料:函館からトラスト「から」No.22、2005 年 12 月号）

助成先団体の活動をひとつ紹介すると、「ペンキ塗りボランティア隊」というのがある。この団体は北海道大学工学部の学生らでつくるボランティア団体であり、基金は設立以降毎年助成を行ってきている。元町など西部地区の歴史的街並みの保全を目的に、伝統的建造物群保存地区を対象として、毎年数棟のペンキを無償で塗り替えている。なお、塗り替えのための足場づくりは、函館市内の建築業者が無料で提供している。同隊の活動は、元町界隈の夏の恒例行事となるなど、市民の自主的なまちづくり活動が定着しつつある。

ペンキ塗りボランティア隊による活動　（資料：函館からトラスト事務局）

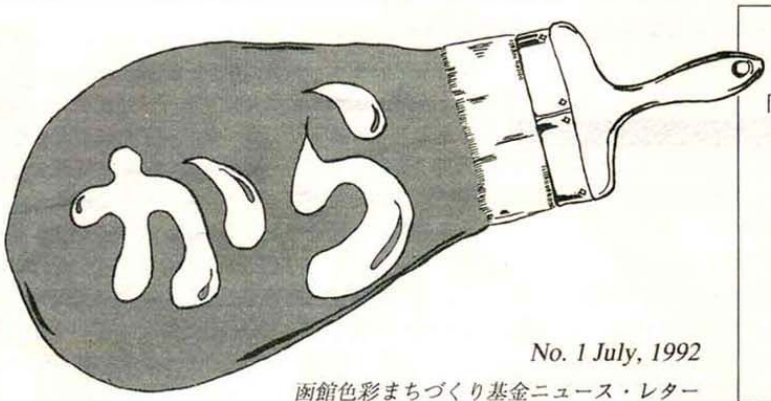
(3) 5 つの「から」

基金は、作文コンクールの開催、情報の発信、まちづくりの実践など、次の 5 つの「から」にこだわってまちづくり支援を行っている。

① 函館のカラーにこだわる ― 函館にこだわった街並み、まちづくりを支援する。
② 函館からの発信 ― 市民の活動要求を育て、市民まちづくりの活動の輪を広げていく。
③ 辛口（からくち）の情報 ― 行政、市民にとって辛口の内容や言いにくいことを自由に言い合える場として。
④ まちづくりの触媒としてのニュースレター「から」の発行
⑤ 目に見える成果から ― 実際の環境で目に見える成果を着実に積み上げていく。

ニュースレター「から」には、助成希望団体の公募や審査結果の報告などの記事を掲載している。ホームページでは、助成先団体の活動紹介を中心に町の楽しい話題なども情報発信する方針である。これまでは新聞社等のマスコミが事務局への取材などを通じて助成先団体募集の記事を掲載してきたので、現在のところ広報にはほとんど費用がかかっていない。

ニュースレターの発行費用などでは、設立から運営まで民主導で取り組んできたという自負もあり、可能な限り行政から独立した活動を志向している。函館市都市建設部部長が運営委員として参加しているが、それ以外に行政から支援を受けているということはない。函館からトラスト事務局は、ピアノやヴァイオリンのリサイタル、チャリティ茶会など様々なイベントを主催しており、それらを通じて基金の存在を周知するとともに、基金への寄付を呼びかけてきている。



No. 1 July, 1992

函館色彩まちづくり基金ニュース・レター

「から」は函館の
「カラー」についての情報を
あちこち「から」
集めて紹介し
これ「から」始まる
ニュース・レターです。
皆様「から」の
情報はもちろん
「辛」口のご意見も
お待ちしています。

――「から」からの――

ご・あ・い・さ・つ

「公益信託函館色彩まちづくり基金」、函館市における住民主導のまちづくりの新しい試みがいよいよ始まろうとしています。

このニュース・レターは、年内の発足を目指し現在我々が準備を進めている「公益信託函館色彩まちづくり基金」に関する情報を中心に、函館市のまちづくりに係わる最近の動向や国内外のまちづくり情報などを交え、数カ月毎の発行予定です。

本紙を通じ読者の皆様との交流と新しいまちづくりネットワークが生まれることを期待しています。

1992年7月

「公益信託函館色彩まちづくり基金」
設定準備委員会

HAKODATEからの News

昨年末から今春にかけて元町倶楽部関係の本が２冊、相次いで発行された。1991年12月に出版された「町並み色彩学I」は、トヨタ財団の研究助成を受け1988年4月から2年半にわたって進められた、函館における色彩文化の研究報告書。美しい時層色環や色彩シミュレーションの実例なども紹介されている。

また92年4月15日には小冊子「函館の歴史的環境の現在」がまとめられた。これは函館市が発行する「地域史研究はこだて」第15号に掲載された内容を抜刷したもの。函館文化服装学院の解体から旧茶屋邸問題まで、函館市景観保全問題の流れを追っている。

↓右／元町倶楽部・函館の色彩文化を考える会発行の「町並み色彩学I」　左／函館の伝統的建造物、旧茶屋邸（明治末建築、木造２階建他）

「から」創刊号　（資料：函館からトラスト事務局）

(4) これまでの実績

基金が助成してきた件数、金額、団体は以下のようになっている。

公益信託函館色彩まちづくり基金の助成件数及び金額の推移

函館色彩まちづくり基金＋函館からトラスト事務局助成リスト

年	回	件数	助成金総額（万円）	函館色彩まちづくり基金助成		函館からトラスト事務局助成
2005	12	5件	150	はこだてフォトアーカイブス はこだて写真図書館 函館デザイン協議会 ペンキ塗りボランティア隊	じろじろ大学出版局 函館町子	
2004	11	6件	150	(有)ビットアンドインク はこだて街なか研究会 ペンキ塗りボランティア隊	函館デザイン協議会 じろじろ大学出版局 ファンナビ編集部	
2003	10	5件	150	ペンキ塗りボランティア隊 西部町並み調査隊 函館デザインセミナー	どんぐりを植える会 node0138プロジェクト	
2002	9	3件	50	ペンキ塗りボランティア隊 アート・ユニット ロッパコ	北海道東北史研究会	
2001	8	2件	50	ペンキ塗りボランティア隊	Art net 路上ミュージアム	
2000	7	1件	30	ペンキ塗りボランティア隊		
1999	6	2件	50	ペンキ塗りボランティア隊	湯川商店街振興組合	
1998	5	2件	50	ペンキ塗りボランティア隊	西部地区群居ワークショップ	
1997	4	4件	50	ペンキ塗りボランティア隊 松陰地区商店街	町並み色彩国際交流 柏木商友会	
1996	3	3件	50	ペンキ塗り替え勝手連 MGM	松陰地区商店街	夜間景観研究会
1995	2	4件	70	ペンキ塗り替え勝手連 函館都電倶楽部	MGM 海同会館の保存	
1994	2	4件	70	函館都電倶楽部 ハートクロス十字街	函館市民会議景観分科会 ペンキ塗り替え勝手連	ペンキこすりだし神戸 元町31ワークショップ

（資料：「公益信託　函館色彩まちづくり基金」ホームページ資料から作成）

(5) 行政の活動

函館市では、現市長が 2000 年 4 月の市長選で「人づくりまちづくり 1 億円事業」を公約として当選したことから、2000 年度より「函館市人づくり・まちづくり事業」として様々な分野でのまちづくりのリーダー的な役割を果たす人材を育成するとともに、市民の自主的なまちづくり活動を支援している。

「まちづくり活動支援補助金」では、1 団体年間 200 万円（初年度）を上限として補助金を交付している。また、「市民自主研修補助金」については、事業1件につき500万円を上限として補助金を交付している。

交付先団体は、学識者、NPO 関係者、企業関係者、公募市民より成る 10 名の委員の審査を経て決定している（事前に事務局（函館市市民活動サポートセンター）が意見を作成）。

こうした市民のまちづくり活動等への経済的支援は、市民の活力を芽生えさせ、市民が自らまちづくりを担っているという意識の醸成を目的としたものであり、直接的な経済効果を目的としたものではない。

まちづくり活動支援補助金及び市民自主研修補助金の事業実績

＜まちづくり活動支援補助金＞

年度	要望	内定	不採択	内定後取下げ	交付決定
2000	15	14	1	2	12
2001	19	17	2	1	16
2002	18	16	2	-	16
2003	17	15	2	-	15
2004	12	9	1	1	10
計	81	71	8	4	69

＜市民自主研修補助金＞

年度	要望	内定	不採択	内定後取下げ	交付決定
2000	2	2	-	-	2
2001	5	5	-	-	5
2002	2	2	-	-	2
2003	3	3	-	-	3
2004	2	2	-	-	2
計	14	14	0	0	14

（資料） 函館市資料

5. 特徴的手法

カラーを基本コンセプトに地区の特性を引き出し、日本初の民間による「まちづくりファンド」を創設して多様なまちづくり活動を継続的に支援することでその特性の維持を図っていることがおおきな特徴である。市民グループが研究活動の成果として獲得した資金をグループ内の活動資金にとどめず地域に還元している点は高く評価できる。

6. 課題

基金設立の 1993 年から 2001 年までの期間、基金運営は「収益（運用益）活用＋寄付金方式」で行い、基金そのものは取り崩さずにきた。これは、基金の取り崩しについて監督官庁である北海道庁の許可が下りなかったためでもある。しかし、この10数年の間に地区の歴史的な建物の約3分の 1 が解体されたこと、地区の人口も最盛期からみれば 4 分の 1 にまで減少し高齢化率も 30%近くになったことなどから、より大きな支援が必要になった。そのため基金の一部を取り崩すことを

申請し、2002 年 8 月、基金の取り崩しに伴う信託条項の一部変更について北海道庁の許可が下りた。これにより信託財産を毎年度 200 万円まで取り崩すことが可能となり、まちづくりや地区の活動等に従来より大規模で積極的な助成活動を実施することが可能となった。

（参考・引用文献）

函館市ホームページ
公益信託　函館色彩まちづくり基金ホームページ
函館からトラスト事務局ホームページ